

# 岐阜県立岐阜高等学校 校歌

作詞 松平 静  
作曲 伊藤栄治



せん じんのたけ きんかざん ひゃくりのみず な がら がわ  
(が) かいのなみ あらくとも きぼうのきし と おくとも



かようのけんじ ここにうまれて こっかのために あげくれまなぶが  
かようのけんじ こころおおしく ひやくせつふう



つとめてやまずふ る へ ふ る へ ほこるさいこの



れ きしある わがこうこの ほまれをば あげよも



ろ びとも ろ ともー に

千仞の嶽	金華山
百里の水	長良川
華陽の健児	ここに生まれて
国家の為に	明け暮れ学ぶ
学海の波	荒くとも
希望の岸	遠くとも
華陽の健児	心雄々しく
百折不撓	つとめてやまず
奮へ 奮へ	
誇る最古の	歴史ある
我が高校の	誉れをば
誉げよ諸人	諸共に

# 岐高女校歌

一、ああすめらみ国 栄ゆるみ代に  
われら起女 坐れあいたる章  
胸の鏡と 日々にあふく  
教への道の 勅語

二、見よ稲葉山の 姿は高し  
われら起女 高く心を保たむ  
国の御為に 人の為に  
力のかきり つくさはや

三、きけ長良川の 瀬の音は清し  
われら起女 清く心とみかかむ  
はけみいそしみ 探かたく  
明なき微笑 うつくしく

# 姫小松

一、学びの庭の 姫小松  
千代の襟に たぐへつ、  
植えしその日のめぐりきぬ  
いせや 祝わん 諸共に

二、恵みのつゆに うらおいし  
みとりゆかしき 姫小松  
いよよますますしげへし  
千代に八千代にさかえなん

藍水くらぶ

高木 あい筆

## 姫小松(創立記念日の歌)

## 岐高女 校歌

まなび-の にわの ひめこまつ ちよのみ さをに  
めぐみ-の つゆに うるほひて みどりゆかしき

あ あ す め ら み く に さ か ゆ る み よ に わ  
み よ い な ば や ま の す が た は た か し わ  
き け な が ら が わ の せ の と は き よ し わ

たぐへつ つ う-えし そのひの めぐり-きぬ  
ひめこまつ い-よよますますしげへし

れ ら を と め う ま れ あ ひ た る さ い は い む ね の  
れ ら を と め た か く こ ろ を た も た -む く に の  
れ ら を と め き よ く こ ろ を み が か -む は げ み

いさや-い わはん もろとも に  
ちよに-や ちよに さかえなん

か が み と ひ び に あ ふ -く お し え の み ち の み こ と の リ  
み た め に ひ と の た -め -に ち か ら の か ぎ り つ く さ ば や  
い そ し み み さ お か -た -く あ か る き え ま ひ う つ く し く

# もくじ

- 1 岐阜県立岐阜高等学校 校歌
  - 2 岐阜高校歌 姫小松（創立記念日の歌）
  - 4 新しい時代に向けて 同窓会 会長 木方伸一郎
  - 5 「同窓会総会」をお祝いして 岐阜県立岐阜高等学校 校長 折戸 敏仁
  - 6 昭和、平成、令和とつなぐもの 運営委員会 委員長 神谷真弓子
  - 7 総会・懇親会 式次第
- 議案・規約

- 8 第1号議案 平成30年度事業報告 第3号議案 令和元年度事業計画(案)
  - 9 第2号議案 平成30年度岐阜高等学校同窓会 決算報告
  - 10 第4号議案 令和元年度岐阜高等学校同窓会 予算(案)
  - 11 同窓会役員
  - 12 平成30年度岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会 決算書
  - 13 令和元年度岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会 予算書
  - 14 岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会規約
- 特集

## 15 特集 とびら

- 特集1
- 16 昭和五十一年卒、昭和六一年卒、平成八年卒のアルバム



our memories

## 特集2

## 22 恩師からの便り

岩田 望先生／岸野 武士先生／内川 史朗先生／日比野 安平先生  
 田口 正芳先生／林 雅浩先生

## Column 当番幹事学年の3年間の担任

- 25 当番幹事学年がお世話になった3年間のクラス担任
- 特集3

- 26 古田 肇 岐阜県知事(昭和四一年卒)インタビュー
- 特集4 寄稿集

## 28 学年代表思い出

・昭和五十一年卒 吉田さらさ(吉田裕子)、小川 真弓、熊澤 啓三、玉木 敬二  
 ・昭和六十一年卒 高田 基志、天野 重敏、野沢 綾子、栗田(加藤)真弓  
 ・平成八年卒 岡田 英之、吉村研太郎、坪井(宮崎)千晶、堀場あかね

- 特集5 昭和五十一年卒 座談会

## 34 「私たちの時代、僕たちの時代」

- 特集6 昭和六十一年卒 座談会

## 38 「昭和六十一年卒岐阜高生 VS 今の岐阜高生」

- 特集7 岐阜高校アーカイブ

## 40 「資料室にある思い出の品をアーカイブ」

- 46 岐高だより・学校案内2018

- 54 平成三十年度 大学合格者数

- 55 令和元年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会運営委員会 名簿

- 56 応援団団歌・凱旋歌

## 57 会報協賛広告

- 148 令和元年度 岐阜県立岐阜高校同窓会総会出席者名簿

- 151 広告(協賛の御礼・編集後記)



## 新しい時代に向けて

岐阜県立岐阜高等学校同窓会 会長 木方 伸一郎

平成から令和へと時代は変わりました。だからといって、不連続でドラスティックな変化があるわけではないのですが、時間の節目は、連続的な日常の中で、今までを振り返り、新しい未来を展望するために良い機会となります。

岐阜高校は、令和五年に一五〇周年を迎えます。この節目は、今までの活動を振り返り、新しい時代の同窓会のあり方について、考えていくには良い機会であると思っています。

一〇〇周年の時は、前の体育館が竣工し「岐高百年史」が発行されました。一四〇周年ではエアコンが備え付けられました。現在は新校舎となり設備は充実しています。上宝町にある林間学舎は竣工して六〇年近く経ち、耐震補強な

ど様々な改装は加えられてきましたが、そろそろ限界に近づいています。建て替えは巨額な費用がかかるため、どういった方向でクロージングを考えていくかを模索しているときいています。また、

周年を機に今までは同窓会名簿が編纂されてきましたが、個人情報保護の観点から難しい時代となってきました。このような状況をふまえ、新しい時代の同窓会のあり方について、今後、学校と協議しながら、いろいろな議論を重ねていきたいと思っています。

さて、令和元年である今年の同窓会総会は、神谷眞弓子さんを運営委員長として、昭和五十一年卒、昭和六十一年卒、平成八年卒の皆さまが、お忙しい中、一年以上も前から準備を始め、企画・動員・広

告および協賛金集めなど多方面にわたりご尽力をいただきました。また、本日は、受付・案内・司会などおおぜいの方々にお世話いただいたいております。心から感謝申し上げます。

私も毎年この六月に、古田 肇 名誉顧問をはじめ、おおぜいの先輩方、そして恩師の先生方の元氣なお姿にお目にかかり、また、いろいろな分野でご活躍の同級生や若い後輩の頼もしいお姿も拝見すること、自分が岐阜高校の卒業生であることを肌で実感するこの機会を楽しみにしております。

どうか皆さんも、楽しいひと時をお過ごしいただき、来年もお元氣でお会いしましょう。





## 「同窓会総会」をお祝いして

岐阜県立岐阜高等学校 校長 折戸 敏仁

平成三一年度の岐阜高校同窓会総会が木方伸一郎会長様をはじめ役員・運営委員の皆様方のご尽力により、多数の会員の皆様方のご出席を得て盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ご存知のように、本校の生徒は「百折不撓・自強不息」の校訓のもと、輝かしい歴史と伝統を受け継ぎながら、「文武両道」をモットーに日々学習や部活動に励んでいます。今春の進路結果は同窓会会報でお知らせさせていただきましたとおりですが、部活動でも限られた時間を有効活用し、各種大会やコンクールなどで活躍しました。

その一端を紹介させていただきますと、硬式野球部が昨年度の戦績と効率的な練習方法を評価さ

れ、選抜高校野球大会「二一世紀杯」岐阜県代表として推薦されました。陸上競技部、卓球部、軟式野球部、水泳部、テニス部は東海大会に出場しました。

また、全国高等学校総合文化祭には書道部、文芸部、囲碁・将棋部、自然科学部が参加しました。自然科学部は高校生科学技術チャレンジに出場し、全国七位となりました。他にも、吹奏楽部が東海アンサンブルコンテストで銀賞を受賞し、囲碁・将棋部が全国高校囲碁選手権大会、全国高文連将棋新人大会に、クイズ研究部が全国高校生クイズ選手権やエコノミクス甲子園の全国大会にそれぞれ出場しました。

さらに、各都道府県から選ばされた四七校が競い合う「科学の甲子園」に六名の生徒が岐阜県代表として出場し、総合第四位に入賞しました。また、全日本高校模擬

国連大会にはシリア大使役として参加しました。「武器移転」をテーマに英語で議論し、「審査員特別賞」を受賞、五月にニューヨークで開催される国際大会へ出場することとなりました。加えて、新たに「即興型英語ディベート」の取組も始め、全国大会に出場しました。

このように、岐高生は様々な分野で果敢に挑戦し、大活躍をしています。今後とも、本校の教育活動に絶大なるご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年度の総会のお世話をいただきます神谷眞弓子運営委員長をはじめ、当番幹事の昭和五一年、六一年、平成八年卒業の皆様のご尽力に感謝申し上げますとともに、会員の皆様方のご健康とご多幸、そして同窓会の益々のご発展を心から祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



## 岐阜高校同窓会総会の開催に寄せて — 昭和、平成、令和とつなぐもの —

令和元年度同窓会総会運営委員会 委員長 神谷 眞弓子

本日は、大勢の同窓生の皆さまにご出席を賜り、今年の幹事当番であります昭和五一年、六一年、平成八年の卒業生を代表しまして、心から御礼を申し上げます。今年の同窓会総会の運営委員の皆様には、開催に向けて一年間余、大学受験に挑む現役岐高生を彷彿させるがごとく本当に尽力頂きました。心から労をねぎらいたいと思います。

さて、我々が開催準備に勤しんでいる最中に時代は平成から令和へ変わりました。会報の記事でも触れておりますが、昭和五一年度卒業生は、昭和三二年、三三年生まれで、日本が未曾有の高度経済成長の路線に乗ってインフラ整備が急激に進み、東京オリンピック開催やビートルズ初来日でグループサウンズが大流行するなど、日本中に活力が満ち溢れていた時に子供であった世代です。「サザエさん」のように、まだ家族が大勢

で支えあつて暮らし、PCなどの便利なものはなくとも温かみのある生活があつた時代です。やがて時は平成へと移り、少子高齢化、グローバル経済化、情報化の嵐とともに個人の自由や平等が格段に進む一方で、次第に世の中が索漠として人間関係も希薄化していった感もあります。そんな中、久しぶりに集まった同級生同士、顔を見れば瞬時に四〇年余の時を遡るとともに、古き良き時代を知る者に漂う、何ともいえない穏やかさや奥深さを感じながら、平成の最後の年をワイワイ活動して過すことになりました。そして令和。今年度が幹事当番として最後となります。我々ですが、平成時代を締め括るべく、会報誌には「岐阜高校アーカイブ」や「昭和五一年卒業生談話会」を掲載させて頂きました。また、先輩の代表として岐阜県知事の古田肇様にインタビュをお願ひし、二回の岐阜国体の時の逸

話など貴重なお話を掲載させて頂きました。先輩方も往時を懐かしく振り返って頂ければ幸いです。明治六年に岐阜中学として開学以来、大正、昭和、平成と一四五年の長きに渡つて多くの卒業生を輩出されてきた岐阜高校ですが、令和の時代になりました。も、「百折不撓」の精神のもと、次代の若く新しい活力が、伝統と歴史を守りながら、さらに母校を発展させていっていただくことを心から願っております。

最後になりますが、本日出席を賜りました皆様方、そして本会報への広告協賛やご寄附を頂きました関係各位にも深く感謝申し上げます。本日の同窓会総会並びに懇親会が、参加されました皆様にとりまして、懐かしい再会や心温まる楽しいひとときとなりますことを祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

## 令和元年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会 総会・懇親会 式次第

令和元年6月2日(日)  
会場：岐阜グランドホテル

### 1. 総会 (11:00 ~ 11:45)

開会の辞

黙祷

同窓会会長挨拶 会 長 木方 伸一郎

学校長挨拶 岐阜高等学校 校長 折戸 敏仁

議案審議

第1号議案 平成30年度事業報告

第2号議案 平成30年度決算報告ならびに監査報告

第3号議案 令和元年度事業計画(案)

第4号議案 令和元年度予算(案)

第5号議案 その他

祝辞 名 誉 顧 問 古田 肇

閉会の辞

### 2. 懇親会 (12:00 ~ 14:00)

オープニング/空撮映像投影

開会のことば 令和元年度同窓会総会運営委員会 委員長 神谷 眞弓子

乾杯 在京(首都圏)岐阜高校同窓会 会 長 尾関 良平

祝電披露

恩師紹介

アトラクション 「見田村千晴ミニライブ」

#### ■プロフィール

見田村千晴(みたむら・ちはる)

1986年5月15日生まれ、岐阜県出身。

人間味とリアリティに溢れた独特な歌詞をストレートな歌声で届けるシンガーソングライター。

岐阜県立岐阜高等学校では音楽部に入る。全日本合唱コンクール全国大会にて1位金賞を獲得。

2013年メジャーデビュー。

2017年3月、ミニアルバム『きっといつか消えてしまう、』をリリース。収録曲である『今度、君に会うまでに』は、「十六銀行」企業CMソングとして書き下ろしたもので、現在も東海地方にてオンエア中。

現在、FM GIFU「Meets up Friday」(毎週金曜 16 ~ 19時)のパーソナリティーとしても活躍。

令和2年度同窓会総会運営委員会 委員長紹介 松波 和寿(昭和52年卒)

校歌斉唱

閉会のことば 令和元年度同窓会総会運営委員会 副委員長 間所 陽一郎

以上

# 議 事

## <第1号議案>

### 平成30年度事業報告

第1回役員会	4月26日	岐阜高校
同窓会総会	6月10日	岐阜グランドホテル
第2回役員会	9月11日	岐阜高校
基調講演会(同窓会主催)	11月2日	岐阜高校
	講師：戸田 達史氏 (昭和54年卒)	
		東京大学大学院医学系研究科神経内科学教授
第3回役員会	2月5日	岐阜高校

### << 参考 >>

- ・平成30年度 在京(首都圏)同窓会総会  
平成30年7月1日 東京ドームホテル

## <第3号議案>

### 令和元年度事業計画(案)

第1回役員会	4月16日	岐阜高校
同窓会総会	6月2日	岐阜グランドホテル
第2回役員会	9月10日	岐阜高校
基調講演会(同窓会主催)	11月12日	岐阜高校
	講師：柘植 康英氏 (昭和47年卒)	
		東海旅客鉄道株式会社代表取締役会長
第3回役員会	2月4日	岐阜高校

### << 参考 >>

- ・令和元年度 在京(首都圏)同窓会総会  
令和元年7月7日 東京ドームホテル



第2号議案  
平成30年度岐阜高等学校同窓会 決算報告

自 平成30年 4月 1日  
至 平成31年 3月31日

【一般会計】

収入の部

科 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	3,647,172	3,647,172	
同窓会入会費	1,065,000	1,059,000	@ 3,000 × 353 名
受取利息	24	28	普通預金利息
雑収入	0	0	
計	4,712,196	4,706,200	

支出の部

役員会費	50,000	39,164	3回
慶弔費	50,000	0	
祝儀、饗別	200,000	79,014	在京同窓会祝儀、退任役員感謝状関連費等
総会運営費	300,000	300,000	平成31年度総会運営委員会補助金
旅費	100,000	76,500	在京同窓会出席者旅費
通信費	10,000	5,009	資料郵送代金
ホームページ関連経費	200,000	119,556	管理料、ドメイン利用料、メンテナンス料等
手数料	10,000	6,264	振込手数料
校史資料室整備費	100,000	28,074	退任校長写真代、額、学海、卒業アルバム
母校支援活動費	300,000	149,395	学校案内、クリアファイル、基調講演会謝礼
雑費	0	2,700	同窓会長名刺代
次年度繰越金	3,392,196	3,900,524	
計	4,712,196	4,706,200	

【特別会計】

収入の部

科 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	4,376,560	4,376,560	
十六銀行株式配当金	482,678	482,654	株式保有数8,142株
受取利息	34	39	普通預金利息
計	4,859,272	4,859,253	

支出の部

次年度繰越金	4,859,272	4,859,253	
計	4,859,272	4,859,253	

【総会特別会計】

収入の部

科 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	15,430,734	15,430,734	
平成30年度総会運営費繰入金	1,200,000	1,200,000	運営費貸出金の返済金
平成30年度同窓会総会余剰金	-	2,757,275	平成30年8月受け入れ
受取利息	118	143	
計	16,630,852	19,388,152	

支出の部

平成31年度総会運営費繰出金	1,200,000	1,200,000	運営費一時貸出金
振込手数料	540	540	
次年度繰越金	15,430,312	18,187,612	
計	16,630,852	19,388,152	

上記の通りご報告申し上げます。

平成31年3月31日

平成30年度岐阜高等学校同窓会

会 計 杉山 正裕

会 計 杉山 文康

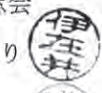
上記について関係書類を監査の結果、適正に処理されていたことを報告いたします。

平成31年3月31日

平成30年度岐阜高等学校同窓会

監 査 伊在井みどり

監 査 佐伯 淑子





第4号議案  
令和元年度岐阜高等学校同窓会 予算 (案)

自 平成31年 4月 1日  
至 令和 2年 3月31日

【一般会計】

収入の部

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	3,900,524	
同窓会入会費	1,083,000	@ 3,000 × 361名
受取利息	24	普通預金利息
雑収入	0	
計	4,983,548	

支出の部

役員会費	50,000	3回
慶弔費	50,000	
祝儀、餞別	200,000	在京同窓会等
総会運営費	300,000	令和2年度総会運営委員会補助金
旅費	100,000	在京同窓会出席者旅費等
通信費	10,000	切手、ハガキ、送料等
ホームページ関連経費	200,000	管理料、ドメイン利用料、メンテナンス料等
手数料	10,000	振込手数料
校史資料室整備費	100,000	資料整理用品等
母校支援活動費	300,000	講演会費、学校案内
雑費	10,000	
次年度繰越金	3,653,548	
計	4,983,548	

※ 一般会計での科目間流用を認める

【特別会計】

収入の部

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	4,859,233	
十六銀行株式配当金	482,654	株式保有数8,142株
受取利息	38	普通預金利息
計	5,341,925	

支出の部

次年度繰越金	5,341,925	
計	5,341,925	

【総会特別会計】

収入の部

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	18,187,612	
令和元年度総会運営費繰入金	1,200,000	運営費貸出金の返済金
受取利息	130	普通預金利息
計	19,387,742	

支出の部

令和2年度総会運営費繰出金	1,200,000	運営費一時貸出金
振込手数料	540	
次年度繰越金	18,187,202	
計	19,387,742	

## 岐阜県立岐阜高等学校同窓会役員

名誉顧問	古田 肇 (昭和41年卒)	
顧問	杉山 幹夫 (昭和20年卒)	野々垣 孝 (昭和31年卒)
	森川 幸江 (昭和40年卒)	水谷 邦照 (昭和41年卒)
名誉会長	折戸 敏仁	
会長	木方伸一郎 (昭和46年卒)	
副会長	木村 容子 (昭和46年卒)	後藤 寿彦 (昭和47年卒)
	杉山 正裕 (昭和49年卒)	遠藤 宏治 (昭和49年卒)
	村瀬 幸雄 (昭和50年卒)	松波 英寿 (昭和50年卒)
	神谷真弓子 (昭和51年卒)	杉山 文康 (昭和54年卒)
会計	杉山 正裕 (昭和49年卒)	杉山 文康 (昭和54年卒)
監査	伊在井みどり (昭和54年卒)	佐伯 淑子 (昭和55年卒)

平成30年度岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会決算書

自 平成29年9月1日 至 平成30年8月31日

1. 収入の部

(単位:円)

科目名	予算	決算	備考
本会預り金	1,200,000	1,200,000	特別会計より運営費
本会受入金収入	300,000	300,000	一般会計より総会費
会費収入	5,200,000	5,526,000	9,000円×610名、教員4,500円×8名
広告料・協賛金収入	6,000,000	6,050,000	
受取利息	0	33	
祝儀収入	0	20,000	
合計	12,700,000	13,096,033	

2. 支出の部

科目名	予算	決算	備考
総会費(総会費)	5,500,000	5,654,263	㈱岐阜グランドホテル支払
総会費(会場セッティング)	100,000	0	
総会費(謝礼金)	150,000	150,000	「岐阜高校部活動紹介」出演の御礼
印刷費	2,800,000	2,544,426	払込票、広告依頼状、案内状、会報等
通信費	200,000	116,208	はがき、切手等
会議費	50,000	43,998	運営委員会会場費、飲物代金等
事務費	100,000	71,546	文具、コピー等
振込手数料	150,000	138,589	コンビニ収納手数料、銀行振込手数料
雑費	50,000	173,728	岐阜新聞他広告料、ホームページ更新料、楽器配送費、座談会の旅費交通費等
反省会費	200,000	246,000	反省会
本会預り金返金	1,200,000	1,200,000	
余剰金	2,200,000	2,757,275	
合計	12,700,000	13,096,033	

上記の通りご報告申し上げます。

平成30年9月1日

運営委員長

村瀬 幸雄



会 計

篠田 秀則



上記について監査をした結果、適正に処理されていることをご報告いたします。

平成30年9月1日

監 査

澁谷 英司





## 令和元年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会 予算書

### 1. 収入の部

(単位:円)

科目名	令和元年度(予算)	備考
本会預かり金	1,200,000	特別会計より運営資金として預かり
本会受入金収入	300,000	一般会計より総会費として受入れ
会費収入	5,814,000	9,000円×642名ほか
広告料・協賛金収入	6,000,000	
その他収入	0	
合計	13,314,000	

### 2. 支出の部

(単位:円)

科目名	令和元年度(予算)	備考	
総会費	懇親会費	5,800,000	ホテル飲食 会場設営費
	イベント経費	250,000	アトラクション
印刷費	2,800,000	会報、案内状、封筒、払込票ほか	
通信費	200,000	総会案内状、広告依頼書発送費等	
会議費	50,000	各種打ち合わせ会議等	
事務費	100,000	コピー代、事務費等	
振込手数料	150,000	コンビニ収納手数料 振込手数料	
雑費	100,000	新聞広告料 ホームページ更新料等	
反省会費	300,000	反省会 次期引継費用	
本会預かり金返金	1,200,000	特別会計へ運営費預かり金の返還	
会費返金	0		
予備費	2,364,000		
余剰金	0		
合計	13,314,000		



## 岐阜県立岐阜高等学校同窓会規約

- 第 1 条** (名称) 本会は岐阜県立岐阜高等学校同窓会と称する。
- 第 2 条** (目的) 本会は会員相互の親睦を図り併せて母校の発展に寄与することを以て目的とする。
- 第 3 条** (組織) 本会は次の会員を以て組織とする。
- 正会員
- 岐阜県岐阜中学校卒業生
- 岐阜県岐阜高等女学校卒業生
- 岐阜県岐阜第一中学校卒業生
- 岐阜県岐阜第一高等学校卒業生
- 岐阜県岐阜女子高等学校卒業生
- 岐阜県立岐阜高等学校併設中学校卒業生
- 岐阜県立岐阜高等学校卒業生
- その他理事会の議を経て、会長の承認した者
- 特別会員 現職員・旧職員
- 第 4 条** (役員) 本会は次の役員をおく。
- |         |     |             |
|---------|-----|-------------|
| 名誉顧問・顧問 | 若干名 | 理事会に於て推挙する。 |
| 名誉会長    | 1名  | 母校校長        |
| 会長      | 1名  | 総会に於て選出する。  |
| 副会長     | 若干名 | 総会に於て選出する。  |
| 監査      | 若干名 | 総会に於て選出する。  |
- 第 5 条** (役員の仕事) 役員の仕事は次の通りとする。
- 会長は会務を総括し、総会・理事会・幹事会を召集し、その議長となる。
- 副会長は会長を補佐し、会長事故があるときは代行する。
- 会長・副会長は、会務の企画並びに会計に関することを行う。
- 監査は会計を監査する。
- 顧問は会長の諮問にこたえる。
- 第 6 条** (役員の仕事) 役員の仕事は2年とする。但し再選を妨げない。
- 第 7 条** (総会) 本会の目的を達成するため、毎年1回総会を開く。但し必要のある場合は臨時総会を開く。
- 第 8 条** (入会金) 正会員は入会金を納入する。
- 第 9 条** (経費) 本会の経費は入会金、寄付金等を以て充てる。
- 第 10 条** (会計) 会計年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日で終わる。
- 第 11 条** (支部) 本会には支部を設けることができる。
- 第 12 条** (同窓会事務局所在場所) 岐阜市大縄場3の1、岐阜県立岐阜高等学校内に置く。

(平成25年6月9日 一部改訂)

# 特集

- 特集1 昭和五一年卒、昭和六一年卒、平成八年卒のアルバム
- 特集2 恩師からの便り
- 特集3 古田肇 岐阜県知事（昭和四一年卒）インタビュー
- 特集4 寄稿集 学年代表思い出
- 特集5 昭和五一年卒 座談会 「私たちの時代、僕たちの時代」
- 特集6 昭和六一年卒 座談会 「昭和六一年卒岐阜高生VS今の岐阜高生」
- 特集7 岐阜高校アーカイブ 「資料室にある思い出の品をアーカイブ」

私たちの

時

代

僕たちの

時

代

our memories





昭和

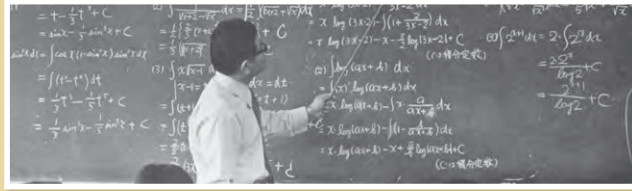
51年卒

私たちの

時代

特集  
1

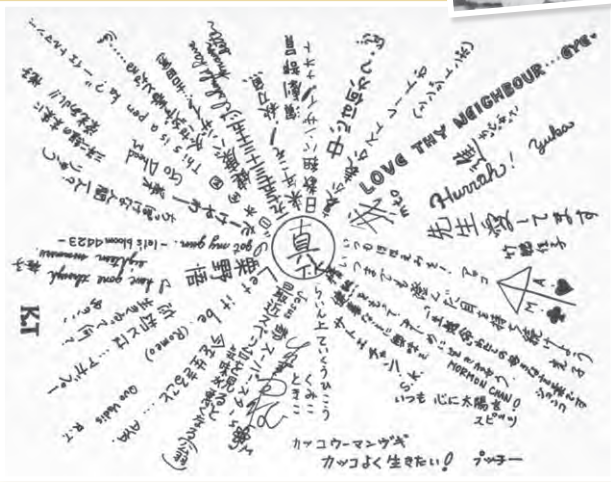
1



2



3



4



5







10



9



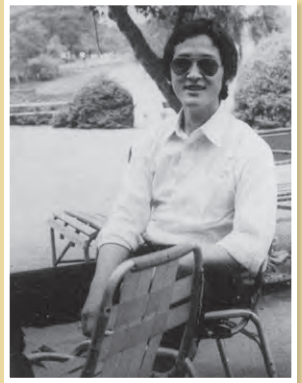
8



7



6



# 僕たちの時代

our memories



昭和

61年卒

私たちの

時

代



1



2



3



4



5







our memories

# 僕たちの時代



平成  
8年卒

私たちの

時代

の



6



7



8



9



10



1



2



3



4



5



僕たちの時代

our memories

## 特集2 恩師からの便り

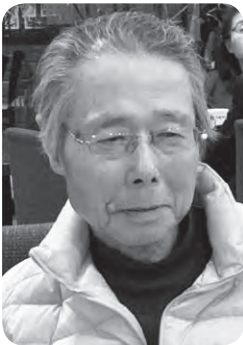
### One Scene from My Reminiscences

岩田 望

小生が自分の母校でもある名門岐阜高校の英語科スタッフの一席をけがしたのは、小生が三〇代から四〇代にかけての一〇年間でした。その間小生は「はぐれ」のガンタを自称し、生徒のひとりから献上された竹刀をばらした割り竹の一本を手に教壇に君臨し、それでもって黒板をたたき、教卓をこづき、敬愛する生徒諸君の頭に、岐阜英語科伝統の総単宗・山貞派の教本にある英単語と「ぐらまあ」とをなぐり込めたのでした。

噫！ なんとということか。

あの「ワン、ツー、たまあ〜ご」！  
文法と読解だけで、聞いて話す、乃ち今や必殺のITとは無縁の英語！  
とはいえ、今この違いわかるかな？  
正しく発音できるかな？ thank you sank' year you ear' light you right'。  
今さらなにを、無駄な負けおしめじゃん。お払い箱の英語教師也。



岩田 望 先生  
(昭和45年、47年～50年に在職)

とはいえ、当時は若かったなあ、元氣だったなあ。時どき突然短く絶叫したね。頑張れ！「隣り」の教室がどつと爆笑、につられてか一瞬おいてこちらの二次爆発！  
ところで君は元氣だよ。当番年次の諸君？ ご苦労さまざまよ。盛会祈る。  
小生今は「ボケ」じい、市井の片隅で、人類の未来を危惧するペシミスト。あと三年のドライビング・ライセンスはとれるかな？ オリンピックまで生きるかな？ ほな、バイ・ビー

### 岐阜高校に感謝

昭和51年卒業生(3年2組)担任  
岸野 武士

「令和」の最初の岐高同窓会に招待され、「歳月人を待たず」とは言うものの、岐阜高校に赴任してから、ほとんど半世紀が経過しようとしていることを思うと、まさに感慨無量です。

岐阜高校で初めてHRを持ったのが、まだ三十路に入ったばかりで、十名の学級担任団の中では一番の若輩だったこともあり、学習指導、生徒指導には、かなり緊張感を持って臨んだことは今も記憶に残っています。六年間と比較的短かったが、岐阜高校でのこの経験が私のその後の教職生活に於いて大変役立つと思っています。

小生の岐阜高校在職中の特に印象深い出来事と言えば、昭和四八年の岐阜高校創立百年祭と昭和五一年の台風接近に伴う豪雨による長良川決壊が挙げられます。前者の式典は新築なった体育館で挙行されたが、若輩の小生は県知事をはじめとする来



岸野 武士 先生  
(昭和46年～51年に在職)

賓の駐車案内係で、式典には列席できず複雑な思いであった。後者の時は、愛車で学校に向かったが、徹明町通りを西進中、梅林校区で車が浸水、エンスト、帰宅して自転車で出勤したが、学校は臨時休校であった。翌日か翌々日だったと思うが、水害被害に遭われた英語科の先生方を見舞ったが、そのうちの一人の先生は小舟を使って二階の窓から家に入りにしてみたのには驚いた。  
縁あって知り合えた同窓生の皆さんとのいろいろな思い出が幾つか脳裏に浮かびますが、ボケないでまたの機会にお話しできるように頑張りたいと思っています。



# 戦後生まれの「戦争体験」

内川 史朗

私は一九四七年生まれの「臆病者」である。

戦争は知らない。名古屋市役所の近くで生まれ育った。幼いころは道路はほとんど舗装されておらず、自動車もほとんど通らない静かな町であった。夜、寝る前に物干し台で、天の川を見て、母親から七夕の話聞いた覚えがある。寝静まったころ、何とも言えない地響きを感じた。それは進駐軍のトラックの音で、言いよらない不安を感じた覚えがある。

私の家の西隣は、アメリカ文化センターといつて、進駐軍の兵隊さんが余暇を楽しむ文化施設であった。ダンスパーティーなどがあると、コーヒートの匂いにつられて、私は弟と一緒に度々二階のホールへ入っていった。兵隊さんたちはとてもやさしく、みずぼらしい格好をした私たちにチョコレートやキャンディーをくれた。それが目的であったが、決して父親には話さなかった。

ある夜、映画上映会で兵隊さんたちと一緒に記録映画を見た。砲弾や銃弾の土煙や、人形のように日本兵が次々に倒れていく映像が流れる。後戻りができない映像である。倒れていく日本兵と父親が重なった。どこまで見たか記憶はない。チョコレートをくれたやさしそうな兵隊さんたちは、ガヤガヤと戦勝気分を楽しんでいた。家に帰って、父親の布

団にもぐりこんで寝た。

母親からは終戦後、玄界灘を渡って日本へ帰国したときの苦労話を聞いたが、父親からは戦争の話も一言も聞かなかった。ただ、夜中に汗びっしょりになつてうなされていたことを母親から聞かされたことがあった。

私が「臆病者」である原点はここにあるのかもしれない。戦争はこの世の最大の不幸であると、恐怖心は延髄に刻み込まれた。教師として岐阜高校をはじめとして、いくつかの学校で生徒と接してきたが、教師として、この「臆病者」の病根は変えようもなかった。

上皇陛下が天皇退位前の会見で、平成という年に戦争がなかったことを喜ばしいと言われたことが強く印象に残った。次の元号に変わっても、戦争のない年にしていかなければならない。振り返ってみれば、戦争に対する「臆病さ」は、「生きる」勇氣と夢を与えてくれたと思う。



内川 史朗 先生  
(昭和56年～平成7年に在職)

# 「申し訳ないことに、楽しさ満載の一〇年間でした」

日比野安平(理科・化学)

私が岐阜高校に勤務したのはほぼ

三〇歳代で、四〇代に入った頃転出しました。

振り返ってみれば若かったこともあって、HR運営と部活動に集中しておれば良かったという有り難い年頃でした。

その頃、私の授業中の「与太話」を題材にして「あんべい氏物語」なる映画を創って岐阜祭で発表していませんでしたか？ 以来何年か学年・クラスは変わっても引き継がれ、パート一から私が転勤する年のパート四まで続きました。諸君の結婚式の披露宴や同窓会でリクエストされ、以来何度も見ました。何時も担任である私の検閲時とはかけ離れた作品になっていました。

当時の私は、岐阜生は「視野はグローバル」、ことを成せば「日本一」と思い定めていました。化学の授業では世界の高校生が使っている教科書を大使館、領事館、留学生を通じて、遂には私自身が派遣された、まだベルリンの壁が存在した頃の東欧の国々のものも直接集めて、授業で

紹介・活用していました。

一方、世界の若者の祭典「ユニバーシアード大会」が神戸で開催された年で、その年の全国高校将棋選手権大会が同時に神戸で開催され、念願の男子団体戦で日本一になりました。遠くは四国の高校等全国から合同宿の依頼が相次ぎ、選手達にはプロから誘いがありました。今売り出し中の藤井聡太七段(名大付属高校生)の師匠・杉本昌隆八段がまだ板谷道場の奨励会員の頃で、そのプロの卵達に岐阜生が団体戦を挑んで勝つという敵なしのとてもない強さでした。

誠に申し訳ないことに、私自身が楽しみまくった一〇年間でした。その付けが回ってきて、七〇歳を過ぎた今も年金の掛け金をせつせと払っています。



日比野安平 先生  
(昭和54年～63年に在職)



# アンパイア (Umpire) ヲフフェリー (Referee)

田口正芳

野球はアンパイア、フットボールはレフェリー。日本語ではどちらも「審判」というけれど、このふたつには明確な違いがある。前者が「ストライク or ボール、アウト or セーフ」のように「判定」をするのに対して、後者はそのプレーが正しいかどうかを「判断」する。だからフットボールでは、ゲーム中に起きた一つのプレーは、競技規則(Rule)とそれ以外の要素(プレーヤーのレベル・ゲームの展開等)も考慮してジャッジされる。したがって、同じ競技の同じプレーが、あるゲームではOKで、別の場合では反則ということも実際にあり得るわけだ(危険なプレーの判断などがその例だ)。

また、そのためジャッジに至る姿勢も異なってくる。アンパイアは事実が起こるまで判定を下すことはなく、じっと待っている。一方レフェリーは(ゲームの展開上)悪い事が起こりそうになると、まずそれを防ぎ(Prevent)コントロールしようとする。例えばラグビーの「オフサイド」なら「Stay outside」とかボク

シングの「Fight」といったコーリングがそれだ。その結果、反則が起こらずゲームが進行すれば皆がハッピーでしょという考え方なのである。(もちろん、これは不正に対して見て見ぬふりをする意味では断じてない)

各競技の特性から両者が存在しているわけだから、どちらが正しいなどとは言えないのだが、どちらかといえば僕はレフェリーでありたいといつも思っている。皆さんがいつか自分たちの高校生活を振り返った時に、この意味が少しばかりわかってくれたら嬉しいなあ。



田口 正芳 先生  
(平成3年～9年に在職)

# 『夢のような時代』

林 雅浩

岐阜高校には二五歳の春から八年間お世話になりました。初任だった前任校が定時制高校、しかも採用教科と異なる英語担当だったため、岐高と聞いて全くの別世界に飛び込んでしまったとの思いがあり「新任のつもりで頑張ろう」と決意してのスタートでした。

在職中常に頭にあつたのは、教科指導の事でした。地歴公民科の先輩先生方の素晴らしい授業や教材、受験指導に憧れ「いつかは生徒に認められる授業を」と必死に勉強した日々でした。当時の皆さんには拙い内容で申し訳なかつたですが、一方で皆さんの真摯に学ぶ姿勢と旺盛な知的好奇心に応えねばとの思いから、自身を引き上げ成長させる事ができたのだと、皆さんに心から感謝しています。

また七年間担任をさせていただいた事も大切な思い出です。どの学級も一人ひとりが皆魅力的で、心が通い合うとともに夢に向かって互いに高め合う素晴らしい雰囲気がありました。今回の幹事学年(日七年度卒)

は三年生で担任し、進路決定の大切な場面をもとに考え悩みながらも立ち会わせていただき、最後は私も一緒に岐高を卒業(異動)した事もあり、忘れられない学年となりました。

岐高での八年間は、教師としての青春時代であり、生徒とともに成長できた夢のような時代でした。卒業生の皆さんと同じ時と場を共有できた事に感謝するとともに、皆さんが岐高で学ばれた事を糧として、今後ますます活躍される事を願っています。



林 雅浩 先生  
(昭和63年～平成7年に在職)



当番幹事学年がお世話になった3年間のクラス担任

昭和51年3月卒業生

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	学年主任	組
中村 善光	永井 弘	辻村 秀夫	鷹見 英志	高田 晃	作山 英雄	岸野 武士	金武 幸八	大平 真澄	足立 光祥	鷹見 英志	昭和48年度第一学年
渡部 正宏	立川 正	土川 裕	中村 善光	杉山 仁	高橋 伸郎	河瀬 治見	岸野 武士	金武 幸八	岩田 望	岩田 望	昭和49年度第二学年
高橋 伸郎	山田 三郎	杉山 仁	山田 喜三	金武 幸八	中村 善光	河瀬 治見	土川 裕	岸野 武士	岩田 望	岩田 望	昭和50年度第三学年

昭和61年3月卒業生

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	学年主任	組
日下部光穂	兼松 修司	名畑 昌一	大竹 克昌	高田 晃	竹内 卓	大月 竜郎	村木 正子	日比野安平	金武 幸八	金武 幸八	昭和58年度第一学年
夏目謙二郎	大竹 克昌	村木 正子	大月 竜郎	名畑 昌一	日比野安平	竹内 卓	金武 幸八	兼松 修司	日下部光穂	金武 幸八	昭和59年度第二学年
村木 正子	竹内 卓	大月 竜郎	大竹 克昌	兼松 修司	日比野安平	江崎 正徳	服部 岩夫	内川 史朗	杉山 勝美	杉山 勝美	昭和60年度第三学年

平成8年3月卒業生

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	学年主任	組
瀬口 芳彦	豊田 治彦	窪田 範男	原 賢仁	朝野 千広	小木曾 浩	大野 育子	河田 圭介	青木 靖浩	田口 正芳	新井 勝	平成5年度第一学年
豊田 治彦	大野 育子	田口 正芳	青木 靖浩	朝野 千広	瀬口 芳彦	窪田 範男	小木曾 浩	林 雅浩	網野 俊六	小林 達夫	平成6年度第二学年
林 雅浩	大野 育子	田口 正芳	青木 靖浩	朝野 千広	瀬口 芳彦	窪田 範男	田中 彰	豊田 治彦	加藤 知之	坂井 俊郎	平成7年度第三学年

特集  
3

古田 肇

岐阜県知事(昭和四一年卒)インタビュー



聞き手・岐阜高校同窓会運営委員長  
神谷眞弓子(昭和51年卒)

**神谷** 古田様は一〇年前の平成二一年の同窓会会報に掲載するため、同じ同窓会幹事学年ということで座談会に参加していただきました。今回はそのご縁で再度インタビューを企画しました。大変お忙しい中、インタビューをご快諾いただき、本当にありがとうございます。本日は宜しくお願いたします。さて、冒頭に、古田様の岐阜高校時代はどんな高校生活でしたか。生徒会長に応援団長もお務めだったそうで、印象に残る思い出をお聞かせください。

**古田** あの頃は皆が生徒会活動には

あまり関心がなかったものだから、まずはどのように関心を持つてもらうかに苦心しましたね。それから応援団長は、当時は生徒会長がやると決まっていたものだから、自然に務めました。

**神谷** あの校歌のはじめの「アイン、ツヴァイン、ドライ」の呼び掛けをなさったんですね。よくぞ男子に生まれけり的な勇ましい応援で憧れたものですが。

**古田** しましたね。硬式野球部が確か、甲子園には行けなかったけれども、三岐大会まで勝ち進んで。応援の時は素肌で学生服を着まして



ねえ、とても暑いから、攻撃の前にはバケツで水を頭からザブザブ被ってやりました。それで激しく動くものだから学生服はボロボロになっちゃいましたね。(笑い)

**神谷** 部活動は柔道部でいらっしやいましたね、どんなご活動でしたでしょうか。

**古田** 当時、岐阜高校の柔道部は強かったんですよ。けれども県大会決勝で関高校と当たるとどうしても勝てなかった。向こうの先鋒は、現在の中部学院大学学長で、岐阜県公安委員長なども務められた古田善伯さん。スピードがあつて大変強くてね、同じ古田でしょ、よく間違えられたのだけど、当時柔道で岐阜の古田といえれば彼のことだったのですよ。

**神谷** へえー、学長の古田先生ですか、県私立大学協会でご一緒するなど、よく存じ上げています。不思議なご縁ですね、びっくりしました。

ところで、古田様は三年間男子クラスだったとお聞きましたか。

**古田** 当時、三年生は文系が五クラ

ス中四クラス男女クラス。男女クラスになるはずだと思って文系を選択したのに、たった一つの男子クラスになってしまいましたね。実力テストの最終日の放課後にあるフォークダンスだけが楽しみでしたね。(笑い)

**神谷** 頭が良くて魅力的な女子には、古田様でも憧れるものだったのでしょうか。

**古田** もうね、あの頃は舟木一夫の『高校三年生』の世界ですね。『ぼくらフォークダンスの手をとれば、甘く匂うよ、黒髪が』ってね。次はお目当ての子と手をつなげるという場面になると、曲が変わって反対回りになっちゃって、がっかりしたりしてね。(笑い) 楽しい思い出です。



**神谷** 古田様といえば、昭和四〇年の岐阜国体の際の炬火最終



ランナーを高校三年生で務めたエピソードが伝説となっています。どんな思い出がありますか。

**古田** 当初はマゲームで参加する予定が、先生からある日突然、お前は練習しなくていい、と言われたんです。いやあ、驚きましてね。で、その日から約一カ月の間、体育の田中猛先生が付きつきりで指導してくださったんです。フォームの指導は

もちろんですが、トーチの煙の流れも美しく見せなければいけないから、走る速さも秒単位で決められているんです。一〇〇メートルを一八秒で走るのを連続二〇本できないと帰れない、一カ月間、もう必死でしたね。(笑い)

**神谷** 走法にご苦労なさったとか。  
**古田** 柔道部だったから走り方が独特で。膝が割れるのをどう矯正す



るかが最大の課題でした。毎晩、膝をひもで

縛って寝るように言われたのですが、どんなに強いひもを使っても、朝になると切れていました。本番はとにかく無我夢中でした。

**神谷** 四七年後の平成二四年に開催された「ぎふ清流国体」では、奇しくも岐阜県知事として、大会を成功に導かれましたね。大役でいろいろと大変だったと思いますが。

**古田** 二回の国体に関わることできたのは幸せなことでした。ぎふ清流国体では運営側となったわけですが、天皇杯と皇后杯の両方取得でき、たいへん盛り上がりしました。

**神谷** ぎふ清流国体でも、サプライズで炬火リレーの走者を務められました。

**古田** パフォーマンスと思われかねませんが、何度も固辞していたのですが。岐阜県体育協会会長で実行委員会副会長の田口義嘉壽さんに「これは知事としてではない、前回の最終ランナーとして再び走ることが県民の皆さんへのご恩返しになるのだから、ぜひお願いしますよ」と強硬

に何度も説得され、もう腹をくくりました。再び最終ランナーを、とのお話でしたが、最終ランナーは若い安藤君に任せて、最終直前の第三走者を務めさせていただきました。

**神谷** 開会宣言もなされて大変でしたね。

**古田** 実はね、開会宣言の時には背広の下にユニフォームを着ていたんです。ネクタイも即座に取り外せるタイプののでね、宣言の後、すぐにバツと脱いで走者ですよ。

**神谷** 歌舞伎役者のようですね、そんな裏話があったとは。本当に興味深いお話です。

四〇年を経て故郷に戻られ、今は知事として職務をこなされる中で、改めて母校にどんな思いを持っておられますか。

**古田** 岐阜高校の後輩の活躍ぶりには感心しております。例えば国際学生科学技術フェアで世界二位になった自然科学部の皆さんには、世界農業遺産の国連調査員の前で長良川のカシミサンショウウオについてプレゼンをしていただいたことがあります。たいへんきちんとした立派な発表で、誇らしい気持ちでした。これによって世界農業遺産の選定の力になっていただいた。



岐阜県美術館長の日比野克彦さんとも話をするので、お互いに、岐阜にな

求めて東京へ出て、東京にないものを求めて海外に出て、そうして頑張ったからこそ、世界のどこにもない魅力が岐阜にあると気づきましたね。岐阜にあるものの多くが世界で十分に通用するんです。例えば、長良川の清らかさ、地歌舞伎、飛騨牛など、私は「本物の日本」と言えますよ。ですから、皆さんには、根っこを古里に置いて、世界に挑戦をしてほしい。根があるからこそいろいろなことが分かるんです。グローバルリーダーであると同時にローカルリーダーであってほしいですね。  
**神谷** 岐阜県には食でも文化でも本物が実に多いと共感します。岐高生の皆さんには根を大切にしてください。本日は沢山の貴重なお話をいただき、誠にありがとうございました。



# 特集4 学年代表思い出

## 大好きだった友達の話

昭和51年卒  
吉田さらさ  
(本名吉田裕子)

高校時代、わたしの親友はムサシ君だった。わたしは文芸部に所属しており、ムサシ君はいつもその部屋にいて、ほかの部員が来る前の時間をよく二人きりで過ごした。彼は、わたしと出会う前は、長良川の河原に寝泊まりする流れ者、つまり捨て犬であった。わたしは幼少期より、かわいそうな動物を見過ごすことができない性質だったが、そのころ自宅にはすでに二頭も犬がいたため、連れて帰れない。仕方ないから部屋で飼おう。

ムサシ君は、自分の立場を心得た賢い犬だったので、部屋でそろうをすることはめつたになかったが、それでも犬のおいはするようで、ある時から、校内に野犬の姿が目立つようになった。このままでは早晚先生に見つかるところだ。わたしは一大決心をして家にムサシ君を連れて行った。父に「捨ててきなさい」と叱られ、「それならわたしも家を出て行く」と泣き叫ぶ。最後には父も根負けし、飼ってもらえることになった。そのころのわたしは、人と打ち解

けるのが少し苦手だった。そのため、もろもろの悩みを聞いてくれるのはムサシ君だけだったのだろう。しかし、大学に入り、東京での人間関係にもまれていくうちに、次第に友達が増えてきた。そして今では、高校時代にほとんどお話しをしたことがなかった同級生の皆さまとも、楽しく交流している。なあんだ、みんな、気さくで親切なよい人たちだったんだ。今ごろになって青春を取り戻した気持ちになるなんて、遅すぎるが、ちよつと嬉しい。



## 学生時代の思い出

昭和51年卒  
小川 真弓

もう、四十年以上前の事です。記憶も曖昧ですが、高校三年生の時、新学期に生徒会のクラス委員を決める事になりました。担任の岸野先生が「立候補者いますか。」とおっしゃいましたが、教室はしーんと静まりかえっていました。仕方なく先生が一人ずつ「○○さんどうですか。○君どうですか。」とお尋ねになりました。しかし、みんな首を横に振り、断り続けました。そして、私の番が来た時、私がぼーっとしていた為に「はい、では太田さん(旧姓)議員をよろしくお願いします。」と議員を仰せつかる流れとなっていました。

あの頃の私は生活態度も学業も模範生徒とは程遠く、ただぼーっと生きていただけの女子高生でしたから、「こんな私で勤まるのか。」と大変焦り不安になりました。ところが、生徒会の会合に出席し他のクラスの方や後輩達と出会う事

で、その仕事がだんだんと楽しくなり、高校生活が充実したものになりました。良い思い出になりました。あの時の担任の岸野先生とは今でも交流があり私の人生で忘れられない恩師の一人です。そして今、在京(首都圏)岐阜高校同窓会の副会長として、尊敬できる先輩方や信頼できる同級生や後輩達と触れ合う度に岐阜高校の卒業生で良かったと実感しています。伝統ある母校の益々の御発展と同窓生の皆様の御健康とお幸せを心よりお祈り致します。





## 高校時代の思い出

昭和51年卒  
熊澤 啓三

小学校、中学校ともに町に一つしかなく、特に私の学年は二クラスしかなかったために、学年八〇人のほぼ全員が幼な馴染みという九年間を過ごした田舎者の私には、都会の岐阜市にある高校というだけで舞い上がり、一年生の最初の頃は本当に毎日緊張して通学していたことを思い出します。何故か自分以外のクラスメートは全員都会育ちのシテイボーイやシテイガールと勘違いしていました。二―三ヶ月もすれば、実はそうでもないとわかって来ましたが(笑)。

一年の時は男女クラスで、小中学校がもちろん男女半々ぐらいのクラスだったので、それ自体に違和感はありませんでしたが、女子のクラスメートはみんな大人に見えて臆したのです。ほとんど話をした記憶がありません。今思えばもったいないことをしました(苦笑)。二年の時に男子クラスになったのですが、一年の時の男女クラスとはいいい意味でも悪い意味でも全く違った雰囲気です。「男子校とはこういうものか」

と圧倒された記憶があります。お陰で、詳しくは言えませんが勉強以外のいろいろなことに興味を持って、三年の時に再びの男女クラスになったのも時すでに遅し、浪人一直線となってしまった原因が二年の時の男子クラスにあると勝手に思い込んでいます。(二年間男子クラスだった皆さん、暴言をお許し下さい・笑)

三年の時は理系コースの男女クラスというかなり稀有なクラスでした。担任の山田三郎先生は、岐阜高校の前の赴任先の某女子高校で私の五つ違いの姉のクラス担任もされていました。そんなご縁もあり、特に受験校選定時にはその姉まで呼び出されて「こら！実力に見合った大学を受験せよ！」と滾々と叱られた懐かしい思い出があります。その山田先生が去る三月にお亡くなりになったのは寂しい限りです。本当にお世話になりました。



## 恩師の尊影

昭和51年卒  
玉木 敬二

同窓会会報の原稿を依頼されたので、押入れから卒業アルバムを探し出した。モノクロ写真の恩師の尊影が並ぶ。「姿勢、呼吸、ATP!」「こんなもん、判別式にほうりこみや、終わりや...」「おひおうし、ふかしおてんさい、さんすいぎよ」...個性溢れる先生方の独特のフレーズが聞こえる。そうそう、国語のS先生

は「医学生は徹夜の解剖実習の時、ホルマリンがついた手も洗わず、キャラメルを剥いて食べるんや。」と仰ってたっけ。夜の解剖室のイメージが膨らみ、すぐに青ざめた。『霊現象』と血をみるのが大の苦手、医学部だけは無理だと思った。ところが、そんな自分が今では、法医学教授として毎日解剖に携わっているの、人生は何がどうなるのかわからない。人は慣れるということを実感したが、やっぱり解剖中にキャラメルは食べない。「京都〇〇殺人事件」を解決するぞ、と赴任して一七年経ったが、京都は平和で『伝統芸能の家元』が殺されることはない。『自由な学風』の学生や大

学院生との研究談義は非常に楽しく、老化防止させてもらっている。

私のいた三年九組卒業生には十名を超える医師、歯科医師、数名の薬剤師がいる。税理士もいる。「九組だけで総合病院ができるわ。どんな病気になっても安心や、頼むぞ」と担任の山田三郎先生はニコニコ顔。「...でも、法医の玉木の世話になるのは勘弁やな。」というオチを付けるのを忘れない。ネクタイ、白衣服で長い棒を抱えての物理の授業は熱く、時に棒に寄りかかってこけそうになられる。毎年のクラス会に必ずご出席されていたが、今年の桜と一緒に逝かれてしまった。四〇年以上経ても四九人全員のことを鮮明に覚えておられる岐高の名物教師のおひとりであった。



昨年のクラス会 (後列一番左)

## 親の小言と冷や酒は……

昭和61年卒  
高田 基志

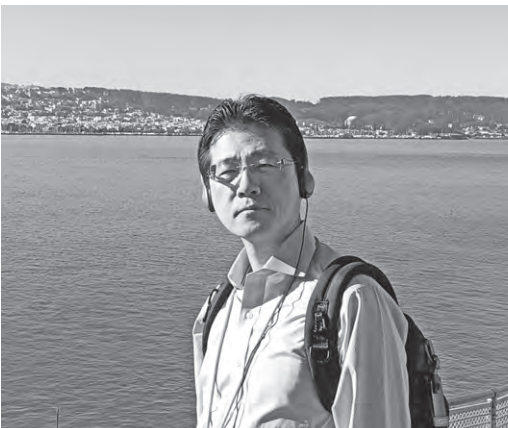
「この高校の凄さは卒業してからわかる」。これは在学中に聞いた言葉だ。しかし高校生の私はさして気にも留めなかった。

一年の後期、私は担任の大竹克昌先生（世界史）にそのか……勧められ生徒会役員になった。生徒会役員なんて面倒な仕事は誰もやりたがらず、ほぼ生徒指導担当教師の指名で決まっていた。それ故一旦引き受けると逃れられなくなり、三年になっても議長をやっていた。そんなある日、制帽廃止を求める動議が提出された。あの当時、男子生徒には登下校中の制帽着用が義務づけられていた。伝統を守ることが至上命題の教師（とそれに賛同する生徒）と、校則変更に果敢に挑む生徒の間に入り、落としどころを探るのに苦労した記憶がある。結局は教師の意見が反映（もしかしたら付度）され議案は否決された。

さて、とある民間病院の副院長となった私は関係各所の調整役として奔走する毎日である。もしかすると、こんな所に高校時代の経験が生きて

いるのかも知れない。職場は一宮市にあるが同窓の先輩二人が病院幹部として活躍されており心強く思っている。最も信頼している同僚は三つ違いの後輩だ。そして数十年下の後輩が研修医として入ってきた。立派な医師となれるよう大切に育てたいと思っている。同窓生として先輩が後輩を思いやり、後輩が先輩を敬う。このあたりまえが脈々と受け継がれていく。

「ああ、こういうことかあ」あの予言じみた言葉がじんわり心に沁みてきた。（総合大雄会病院 副院長）



## 私にとっての「岐高卒業生」

昭和61年卒  
天野 重敏

本寄稿を友人から依頼されて高校時代を思い出していました。いろいろありましたね。でも、私の場合は、むしろ卒業後に皆さんにお世話になっていてという面が多いということにあらためて気が付きました。

三〇歳過ぎからでしょうか、在京同級生中心に時々会うようになってから「岐高卒業生」ということの大さをあらためて思い知らされました。同じ高校出身ということで高校時代には話したこともほとんどなかった方とも親しくなれ、日常と違う世界を教えてもらい、そして仕事やプライベートで行き詰まりかけている時に皆さんの活躍ぶりにいい意味でとても大きな刺激をもらいました。

少し近況をお話ししますと現在は東京で比較的大きな会社で働いておりますが、「新人時代は比較的大企業↓小さなベンチャーへ挑戦↓買収されて大企業↓再度ベンチャーに挑戦↓またしても買収されて大企業」と二転三転のサラリーマン人生を送らせてもらっています。

経歴を見ていろいろ感じる方がいると思いますが、実のところ何度も折れそうになったことがありました。ただちようどいい頻度で同級生に会って、各エリアで活躍されている皆さんに大変いい刺激を受けてうまくリセットできたかと思えます。

私の場合、同窓会と言えば過去を懐かしむ場というよりは、むしろ今とこれからを大事にしたいと思える場になっているように感じます。今回もこのように寄稿の声をかけてくれた友人にあらためて感謝したいと思います。





## 「海外でのライフワークのきっかけに なった高校時代」

昭和61年卒  
野沢 綾子

カナダ、ドイツ、アメリカと半生

が海外になった頃、ウクライナ人の夫の仕事で二年広島駐在となり、家族で日本生活を満喫して、一月帰米しました。高校時代、感受性の強い私は自分を見失いそうに感じ、他にも学び方があるはずという問いが、大学卒業後にアメリカで異文化間コミュニケーションの修士、カナダでホリスティック教育の博士号修得に繋がりました。結局ずっと教育分野に携わって来ました。

カナダ生まれの高2の長男が四ヶ

国語を駆使して日・米・独の生活に適応し、日米の高校選択や今後の進路を自ら見つけ出す姿や、ドイツ生まれの二三歳の次男がアメリカの小学校が合わず、ホームスクールで一年生半年、友達に会うため六年の夏日本から単独渡米する姿。家族の計画もそれぞれの言い分と大事な話を話し合うにつけ、己をよく知っていると苦笑しながらも、これからの時代を生きる力だと頼もしく見守っています。不透明な時代だからこそ、自分に繋がる大切さや方法を日米、世界で伝えます。岐阜、日本・世界のどこかでお会いしましょう！

広島では平和教育に関わることも多く、国内外の貴重な体験や出会いが沢山ありました。大学で教える他に、ヨガ指導やコーチング、コネクション・プラクティスという共感性・洞察力を高めるスキルを教えるに各地からよばれ、今こういうことが子供、大人共に求められている時代だと実感しました。弱みと思っていた感受性がライフワークに繋がって、貢献できる巡り合わせになるとは！



## 「やり直せるものなら……」

昭和61年卒  
栗田 真弓  
(旧姓 加藤)

私は今、できる事なら岐阜での三

年間をやり直したいと思つています。というのも、私は一年の夏頃から拒食症に陥り、やっと克服し始めたのは卒業する頃でした。ただ、学校には極力出席しました。勉強の為もありですが、どんな容姿の私でも、変わらず接してくれるクラスメイトと先生方がいてくれたからです。移動時、歩くのもままならない私に常に親友が付き合ってくれ、二年の春休みにはクラスの女子全員で旅行にも行きました。そんな私が拒食症を克服できたきっかけは、養護の河合朋子先生でした。三年の冬、頑なに食べ物拒んでいた私と、保健室で一緒にお弁当を食べて

くださった、その時分けていただいた河合朋子先生お手製の「なす味噌」がたまらなく美味しかったのを今でも覚えています。思えばその頃から次第に食事が摂れるようになり、無事、希望の大学に合格できま



した。大学は一人暮らししながら、文化人類学を専攻。その後はSEとして、自身の出産まで、やり甲斐のある仕事を続けることができました。現在は日本年金機構に在籍し、休日には娘と、趣味のライブ参戦に国内外を飛び回る幸せな日々です。岐阜での皆さんとの出会いがなければ私の今は無い、ただ、健康で過ごしていたらもっと素敵な青春時代だったと思います。今は少しでも取り戻すべく、皆さんと同窓会でできる限り交流を深めていきたいと思っています。皆さん今後共よろしくお願ひします。

## つながり

平成8年卒  
岡田 英之

「お前ら何やっとなるんじや」今日も野球部の先輩からありがたい。『お説教』を頂き、一日の練習を終える。振り返ってみれば、ブラックやハラメントとも言われかねない『愛情のこもった』指導であったが、当時は当たり前を受け入れていた。そのおかげで、我が事として真摯に受け止めることや難局を乗り越えるための処世術も付随的に身に付いたような気がする。「情熱無き者は去れ!」「何事も礼儀から」グラウンドで汗を流した日々は私の原点でもある。文武両道に青春をかけた当時の淡い思い出を美化しているのか、近年、県立進学校が甲子園に出場する度に耳にする出古豪復活の知らせが気持ちを高ぶらせるのか、母校と野球部に對する想いは感謝の気持ちと共に増すばかりである。

転勤で郷里を離れた現在は、球場に足を運んでいる同級生や実家の父がLINEで実況中継してくれる。岐阜高校野球部は同級生・家族をつないでくれる大切な存在である。球場では、伝統ある応援団にチアリー

ダーが加わり、吹奏楽部の軽快なリズムに合わせて、スタンドの一体感を創り出している。在校生はもちろん、先生、父兄、卒業生、岐阜高校を目指す子供、地元とのつながり。野球部がそのきっかけとなっていることが嬉しい。平成最後の選抜二一世紀杯での念願は叶わなかったが『その日』は確実に近付いていると思う。アルプススタンドで時代と世代を超えて、校歌斉唱で皆とつながる日を心待ちにしている。



## 不惑三年目の年に寄せて

平成8年卒  
吉村研太郎

今年二月、はやぶさ二が小惑星リュウグウへの着陸に成功した。大時代宇宙工学を学んだ自分としては興奮を覚える。

初めて宇宙飛行士に憧れを抱いたのは小学二年。人類が宇宙空間へ行って地球を外側から眺めるといことがとにかくすごいことだ。岐阜高校へ入り、共学なのに男子クラスになって心なしか動揺していたところ、最初の物理のテストで一〇〇点満点中一三点を取ったときには夢が潰えたかと思った。しかし網野先生が作ったこのテストの平均点はたしか九点で、希望はつなかつた。

それから約四半世紀、今も宇宙に携わっている。と書きたいところが、その後経済にも興味が湧いて全く別の道を歩んでいる。職場の後輩からは「法学部卒かと思ってました」と言われてしまった。

ただ宇宙は、エンジニアたちの努力のおかげで、科学者でなくても行ける日が確実に近づいている。幸い、人生一〇〇年時代らしいから我々もまだ待てる。元理系としては、いさ

さか他人頼みではあるが。

不惑を過ぎ、しかし今でも仕事で踏ん張りが必要だったり、ぶっつけ本番のフルマラソンで完歩できたりしたとき、その基礎に思いを馳せると、毎朝三〇分ケツタで西陸橋を越えて通い、友人にも恵まれた岐阜高校での三年間にたどり着く。東京で子育ての話になれば、本当は岐阜で育てるのが一番だと思っけどねと答えてしまう。ああ、自分はまだ結婚もしていないのだった。人生一〇〇年時代、まだまだこれから。





## 背中を押してくれた 先生方の言葉や同級生の姿

平成8年卒  
坪井 千晶  
(旧姓 宮崎)

今回、同窓会誌を寄稿するに当たり「高校を卒業してからの人生の方が長い」ことに改めて驚きました。私は、岐阜高校を卒業してから東京の大学へ進学して、その後は国家公務員として働いてきました。そして今は「三歳の男の子を育てるお母さん」でもあります。

国家公務員としての仕事は、入省した厚生労働省で雇用や年金に関わる仕事をした以外に、環境省や総務省、石川県庁での仕事もありました。高校生の時には、こうした仕事をすると夢にも思っていませんでした。が、進学先を決める高校二年生の頃から、当時の担任の先生方から「力を発揮できる大学にチャレンジするように」「私が東京に行きたがらなかったため」東京には色々なチャンスがある。」と強く言われていたことを思い出します。最終的には自分で決めて進学したのですが、先生方の言葉や目標にチャレンジする同級生の影響は大きかったと思います。仕事を続けてきて厳しい局面はありましたが、マイペースを保ちつつ

色々な人と助け合いながら、今に至ります。

目下は、日々体力を奪われる、

三歳男児の相手が厳しい局面かもしれません。彼が過ごす高校生活は分達の時と全く違う環境でしょうが、岐阜高校の先生や同級生のような、その後の人生の後押しになるような出会いがあると良いと思います。



## 岐阜高校卒業後

### 二〇〇年を経て

平成8年卒  
堀場あかね

平成八年に岐阜高校を卒業し、二〇年以上経ち、現在は私が在学していた頃の校舎とは変わり、通学に利用していた路面電車もなくなり、時代の変化を感じます。部活動は音楽部に所属し、当時は部員が少なく、いろいろな方々に助けていただきながら、コンクールや演奏会に出場していました。活動が軌道に乗るまでには試行錯誤しながら、部員同士でも意見が合わず苦労したこともありましたが、今となってはいい思い出となっています。

高校卒業後は県外の大学に進学、大学卒業後は岐阜に戻り、現在は内科医として勤務しています。医師になって学生時代に勉強したことと実際の診療に差があり、試験で出るような典型的な症例はほとんどなく、いろいろな症状、所見などの情報を集め、疾患を鑑別し、治療を進めていくことの難しさを感じました。治療を進めていく中では薬の投与や処置だけを考えるのではなく、患者さんの様々な背景やご家族の状況や環境も含めて治療方針を決定したり、

様々な職種や地域の医療機関とも連携することなどを実際の診療で学びました。仕事をする中で壁にぶつかり、行き詰まったり、周りの方々に迷惑をかけることもたくさんありましたが、多くの先輩・後輩達や、高校時代には交流のなかった同級生など岐阜高校卒業生という繋がりを通じて交流があり、いろいろな場面で助けられています。

今回、同窓会を通じて同級生と繋がる機会があり、皆の活躍に刺激を受け、改めて百折不撓・自强不息を校訓とした岐阜高校の卒業生に恥じぬよう頑張っていきたいと思いません。

